

# 看護専門学校教員のフィジカルアセスメント教育に関する 研修プログラムの評価

藤本美由紀\* 丹 佳子\* 田中愛子\* 井上真奈美\* 岩本テルヨ\*

## 要旨

本研究の目的は看護専門学校教員のフィジカルアセスメント教育に関する研修会の評価である。研究対象者は看護専門学校教員11名で、フォーカスグループインタビューを用いた調査を実施した。結果として、「研修を受けてわかったこと・よかったこと」で【フィジカルアセスメントの教育目標の設定】【基礎看護学領域でのフィジカルアセスメント教育内容の理解】【基礎看護学領域以外の科目でのフィジカルアセスメント教育内容の理解】【具体的教育方法の理解】【教材の活用方法の理解】【評価方法の視点の理解】【フィジカルアセスメントの意味・使い方の理解】【研修会プログラムに満足】【自己課題の認識】の9カテゴリ、「もっと知りたいこと」で【自校でのフィジカルアセスメント教育の展開】【教育内容・方法の更なる理解】【教育評価の方法の理解】【研修プログラムにおける演習への要望】の4カテゴリが抽出された。対象者は研修プログラムとフォーカスグループインタビューにより、具体的教育内容と教育方法を理解し、自己課題を発見しており、学習意欲を刺激する研修プログラムであった。また課題として技術確認と演習時間の確保、看護援助へのつなげ方を強調する必要性が示唆された。

キーワード：フィジカルアセスメント教育、評価、フォーカスグループインタビュー、看護専門学校教員

## I. はじめに

保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正に伴い、平成21年度より新カリキュラムが施行される。今回のカリキュラム改正において、フィジカルアセスメントはより強化が必要な教育内容と位置づけられ、その充実が求められている。

一方、フィジカルアセスメント教育は1990年代より注目されるようになった新しい分野であり、教育内容の厳選や教授方法の工夫においては看護基礎教育を行う多くの教育機関において模索状態である<sup>1)</sup>。特に、看護専門学校においては、これまで系統的にフィジカルアセスメント教育を実施していないところも多く、看護専門学校教員の中にはフィジカルアセスメント教育に戸惑いや不安を口にする者も多いため、研修会など教員自身が教育を受ける機会が求められているともいえる。今後、より効果的な研修プログラムが必要となると考えるが、看護専門学校におけるフィジカルアセスメント教育に関する先行研究においては、教員を対象とした研修会の効果や課題に着眼したものはほとんど見あたらない。

そこで、本研究では、看護専門学校教員を対象に試行的に行った研修会の評価を、フォーカスグループインタビューを用いて行い、本研修会の効果と課

題について明らかにすることとした。

## II. 研究方法

### 1. 対象

2008年8月に試行的に行った「看護専門学校教員向けフィジカルアセスメント研修」(研修の内容の詳細は表1のとおりで、教育目標は表2のとおりである。)に参加した看護専門学校の教員(11人、すべて女性)を対象に、フォーカスグループインタビューを用いた調査を実施した。

### 2. 調査方法

フォーカスグループインタビューでは、表3に示したインタビュー項目に沿って調査を実施した。発言のしやすさ等を考慮し、1グループあたりの人数が5～6人にし、合計2グループとし、調査時間は各グループ2時間とした。インタビューの進行は、フォーカスグループインタビュー前に実施した「看護専門学校教員向けフィジカルアセスメント研修」の講師を担当しなかった2名の研究者が1グループずつを担当した。記録は、対象者の許可を得た上ですべてのインタビューを録音した。

\*山口県立大学看護栄養学部看護学科

表1 フィジカルアセスメント研修会

<1日目>										
① 9:30～11:30 フィジカルアセスメントとは（講義・演習） フィジカルアセスメントについて理解を深めるとともに、フィジカルアセスメントの4つの技術（視診・触診・打診・聴診）について学ぶ。										
② 13:00～15:00 全身のアセスメント（講義・演習） 簡略化した全身のアセスメントについて演習を行いながら解説する。										
③ 15:30～16:30 本日のまとめと質疑応答 本で行った講義・演習に関する質疑応答を受けながら、まとめ・補足説明を行う。演習時間が足りなかった部分はここで演習を行う。										
<2日目>										
④ 9:30～11:30 呼吸・循環器系のアセスメント（講義） 呼吸器系・循環器系の情報を得るための視診、触診、打診、聴診の仕方を学ぶとともに、その情報が意味していることを読み取り、判断する基礎知識を学ぶ。										
⑤ 13:00～15:00 呼吸・循環器系のアセスメント（演習） ④の講義をふまえて演習を行う。										
⑥ 15:30～16:30 本日のまとめと質疑応答 本で行った講義・演習に関する質疑応答を受けながら、まとめ・補足説明を行う。演習時間が足りなかった部分はここで演習を行う。										
<3日目>										
⑦ 9:30～11:30 筋・骨格系のアセスメント（講義・演習） 筋・骨格系のアセスメント（問診・視診・触診）のポイントを学ぶとともに、関節可動域やMMTによる筋力評価について演習を交えながら解説する。										
⑧ 13:00～15:00 フィジカルアセスメント教育に関する意見交換会 3日間の演習を通じての質疑応答を行う。また、看護基礎教育におけるフィジカルアセスメントについて、教育内容・方法に関する意見交換を行う。										
1日目	月	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	
			①フィジカルアセスメントとは (講義・演習)				②全身のアセスメント (講義・演習)		③本日のまとめと質疑	
2日目	火	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	
			④呼吸と循環のアセスメント (講義)				⑤呼吸と循環のアセスメント (演習)		⑥本日のまとめと質疑	
3日目	水	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	
			⑦筋・骨格系のアセスメント (講義・演習)				⑧フィジカルアセスメント 教育に関する 意見交換会			

3. 倫理的配慮

研究の目的、方法・期間、研究協力の任意性と撤回の自由、協力内容と所要時間、データの開示、協力によりもたらされる利益および不利益、個人情報保護と秘密保持、研究成果の公表、質問の自由について書面で説明し、文書にて同意を得た。

4. 分析方法

結果の分析は、萱間<sup>2)</sup>の分析方法を参考に行った。フォーカスグループインタビューの録音をもとに逐語録を作成し、その内容を熟読し、各発言に含まれている「研修を受けてよかったこと」、「研修を受けてもっと知りたいこと」の記述を抜粋した。続いて「研修を受けてよかったこと」、「研修を受けてもっ

表2 研修会の教育目標

1.	看護基礎教育で学生に伝えるべきフィジカルアセスメントの教育内容がわかる
2.	今回のカリキュラム改正におけるフィジカルアセスメントの位置づけがわかる
3.	本学の基礎看護学領域で行われているフィジカルアセスメント教育計画の概要がわかる
4.	本学の基礎看護学領域で行われているフィジカルアセスメント教育の目標がわかる
5.	フィジカルアセスメントの意味が理解できる
6.	フィジカルアセスメントの診察技術が理解でき、正しく行うことができる
7.	フィジカルアセスメントの教育の工夫について考えることができる

表3 フォーカスグループインタビュー項目

1.	研修内容や取り上げた項目についてどのように感じたか 「今回の研修内容や取り上げた項目についてどのように感じましたが、スケジュールや時間配分なども含めてお話しください。」
2.	研修を受けてよかったと感じる点 「今回研修を受けてよかったと感じる点についてお話しください。」
3.	研修を受けてフィジカルアセスメント教育を実施する上でもっと知りたいと思うこと 「フィジカルアセスメント教育を実施する上でもっと知りたいと思うことは何ですか。自由にお話しください。」

と知りたいこと」の各々について、意味のある記述内容を一単位としてコード化した。内容の類似するコードをカテゴリ化し、内容を簡潔に表す表題（サブカテゴリ名）を付した。さらにその表題に関しても、類似する内容をグループ化し、より抽象度の高い表題（カテゴリ名）を付けるという作業を繰り返した。

コード化からカテゴリ化に至る一連の手順は共同著者全員で行った。逐語録からの問題項目の抽出やカテゴリの表現方法など、分析の内容に関して定期的に議論を行い、見落とししたり重複したりしている概念がないか、結果がインタビューデータを十分に反映した内容になっているか確認した。

また、分析後、調査対象者1名に、抽出されたカテゴリを提示し、内容の妥当性を確認した。

### Ⅲ. 結果

対象者のすべては同じ看護専門学校の教員であった。対象者の臨床経験は平均 $14.5 \pm 6.98$ 年で、教育経験は $6.5 \pm 6.15$ 年であった（表4）

表4 対象者の概要

	臨床経験（年）	教育経験（年）
A	20	5
B	10	9
C	7	22
D	9	10
E	27	2
F	20	0
G	22	0
H	7	7
I	17	7
J	8	3
K	13	6
平均	$14.5 \pm 6.98$	$6.5 \pm 6.15$

分析の結果、全コード数は153で、「研修をうけてわかったこと・よかったこと」は98コード、「もっと知りたいこと」は55コードであった。

(以下、カテゴリを【 】, サブカテゴリを<>で囲んで示す)。

### 1. 研修をうけてわかったこと・よかったこと (表5)

「研修をうけてわかったこと・よかったこと」においては、9カテゴリと22のサブカテゴリが形成された(表5)。「研修をうけてわかったこと」の9カテゴリは【フィジカルアセスメントの教育目標の設定】【基礎看護学領域でのフィジカルアセスメント教育内容の理解】【基礎看護学領域以外の科目でのフィジカルアセスメントの教育内容の理解】【具体的教育方法の理解】【教材の活用方法の理解】【評価の視点の理解】【フィジカルアセスメントの意味・使い方の理解】【研修会プログラムに満足】【自己課題の認識】であった。

最もコード数が多かったカテゴリは【具体的教育方法の理解】で38コードであった。このカテゴリは全カテゴリの中でもっとも多いコード数で形成されていた。このカテゴリを形成したサブカテゴリをみると、<学生に合わせた工夫の実際が学べた>サブカテゴリが17コードと最も多く、次いで<フィジカルアセスメントの教え方がわかった>サブカテゴリが10コードであった。次にコード数が多かったカテゴリは【基礎看護学領域でのフィジカルアセスメント教育内容の理解】と【フィジカルアセスメントの意味・使い方の理解】で、それぞれ12コードであった。

### 2. もっと知りたいこと (表6)

「もっと知りたいこと」においては4カテゴリと16のサブカテゴリが形成された(表6)。「もっと知りたいこと」の4カテゴリは【自校でのフィジカルアセスメント教育の展開】【教育内容・方法の更なる理解】【教育評価の方法の理解】【研修プログラムにおける演習への要望】であった。

最もコード数が多かったカテゴリは【教育内容・方法の更なる理解】で25コードであった。このカテゴリを形成したサブカテゴリをみると、<フィジカルアセスメントをどのように看護援助につなげるかもっと聞きたい><脳・神経系の教育の実際を体験

したい>サブカテゴリがそれぞれ7コード、8コードと多くなっていた。

サブカテゴリ別にみると、最もコード数が多かったのは【自校でのフィジカルアセスメント教育の展開】カテゴリの<基礎看護学以外の科目とフィジカルアセスメント教育の関係(カリキュラム)についても考えたい>サブカテゴリで、9コードであった。

### 3. カテゴリと主要なサブカテゴリ間の関係(図1)

表5 表6に示されたカテゴリと主要なサブカテゴリ間の関係を図1に示した。左端に示している今回の研修を受けることによって、対象者は教育目標や内容、方法、教材、評価など、多くの事柄について理解していた(図中A)。また、そのことによって、研修プログラム自体の満足度も高くなっていた(図中B)。

フィジカルアセスメント教育に関する理解の中でも、【具体的教育方法の理解】カテゴリの<フィジカルアセスメントの教え方がわかった><学生に合わせた工夫の実際が学べた><教員の意思統一・連携して教える>、【教材の活用方法の理解】カテゴリの<教材を充実することの大切さがわかった><教材の使い方がわかった>は、対象者の自己学習意欲を刺激する結果となり、【自己課題の認識】につながっていった(図中C)。また、このカテゴリには<自己研鑽の必要性を認識した>というサブカテゴリもあり、『ほんとにきちっとやっていかないといけないっていう風にならざるを得ないので、ほんとに勉強しないといけないなって』というコードからもわかるように、教育方法や教材だけでなく、研修会全体が自己課題を認識させる機会になっていた。さらに、この自己課題の認識(図中C)は、「もっと知りたいこと」(図中D)の【教育内容・方法の更なる理解】【研修プログラムにおける演習への要望】カテゴリとの関連がみられた。

また、【基礎看護学領域でのフィジカルアセスメント教育内容の理解】【基礎看護学領域以外の科目でのフィジカルアセスメントの教育内容の理解】【評価の視点の理解】(図中A)によって、さらに、【自校でのフィジカルアセスメント教育の展開】(図中D)を想定しながら、<基礎看護学以外の科目とフィジカルアセスメント教育の関係(カリキュラム)についても考えたい><フィジカルアセスメントをど

表5. わかったこと、よかったことのカテゴリとサブカテゴリ、コード

カテゴリ	サブカテゴリ	コード
フィジカルアセスメントの教育目標の設定 (6)	基礎領域でのフィジカルアセスメントの教育目標がわかった (3)	到達ちゅうかラインがなんとなく見えたかな
	正常と異常を見分けることが目標である (3)	異常の部分って言うのが「あっ」ここら辺までを異常と正常を見分けるっていうのを考えたらいんだというところでちょっと示唆を頂いたのかなという感じを受けました。
基礎看護学領域でのフィジカルアセスメント教育内容の理解 (12)	基礎看護学領域でのフィジカルアセスメント教育の順序性がわかった (6)	呼吸、循環があって、外皮系が有って、最後に骨、筋という並びで考えていったらいいのかな
	教える内容を厳選する (5)	最初は全部入れようちゅうような方法だったけどさあ、それは絶対おかしいよねっちゅうのがわかった。
	いろいろな方法がある (1)	いろいろなやり方があるからねっていうのは伝えられるので、自分の中でそこが安心したところ。
基礎看護学領域以外の科目でのフィジカルアセスメントの教育内容の理解 (3)	他の看護学でのフィジカルアセスメントの教育内容がわかった (3)	こういう風にしたらいいのかなとか、じゃあその自分の分野ではこの辺をちょっと、このようなカリキュラム立てができたのならこのところはやめてここだけをちょっと残してだとか、少し整理ができた
具体的教育方法の理解 (38)	フィジカルアセスメントの教え方がわかった (10)	こういう風に講義したら、ま、自分が食いつくところは、きっと学生も…今日、凄い面白い！ああ、こういう風に言えばいいんだとか、すーごい、すんなり入ってきて、ああ、これみならわにやいけんなんて言うのが山のように、それは、すっごい参考になりました。
	学生に合わせた工夫の実践が学べた (17)	あそこまで、一人ひとりに目を向けて進めてもらったりとか、ああ、ちょっと不足しておったかもって、そういう別の私は、勉強になったかなと思います。 学生さんのですね、あの一ほんと、あの一こう引き出せる、ほんとに持っている力を引き出させてあげられるような質問の仕方っていうか、ほんと、質問の仕方が、素敵だなと思いがら
	学生に教材を自由に使えることの大切さがわかった (2)	今の学生の状況に応じた方法にどんどん切り替えられているっていったところにはやはり、はい、勉強になりました。
	ポイントを絞って教えることが大切 (3)	開放、自由に使っていていいですよっていう、自由にコンピューターも触っていていいですよっていったそういうものだとか気の広さとか、大切だっていう風に思いました。
	事前学習の提示の重要性がわかった (2)	一つの音、ザーザーっていう音を聞き分けるだけでいいですよとかって言ったあの一初歩的っていうんですかあ一言うところもポイント的に言ってくれたりだとか、あーすっと入りやすいなっていう風に思いました。
	教員の意識統一・連携して教える (4)	事前学習がすごく、しっかりされ、しっかりされてるってちょっと言い方が申し訳ないんですけど、あれが学生、この学生はしっかり身につけてるんだなあって思いました。
		皆さんは意識統一っていうのをしっかりされてるように思ったんですね。 基礎はこまでも求めましようってきくと意識統一してあるんだらうなーっと思っただので、まあ有効だなー
教材の活用方法の理解 (5)	教材を充実することの大切さがわかった (3)	フィジコだけじゃなくってイチローくんとかまあ何グループかに別れて同じ呼吸とか心音とかが聞けるような形でセッティングしてあったりだとか、なんか揃ってるなあっていうのが、うちはまあ一個か二個くらいなんでまだ、その辺もそろえていかないといけないのかなと思いました
	教材の使い方がわかった (2)	いろんな、工夫、VTR使ったり、ビデオ使ったり。スケルトンを使ったりっていうのが凄く解りやすかったので、使ってなかったなあって思いました。
評価の視点の理解 (2)	フィジカルアセスメントの評価の視点がわかった (2)	コミュニケーションも一緒に駆使しながら技術チェックをするっておっしゃっていたので、ああそういうことが必要なんだなあっていう風には思いましたねえ
フィジカルアセスメントの意味・使い方の理解 (12)	フィジカルアセスメントの意味が理解できた (6)	フィジカルアセスメントっていう言葉が私には取ってつけたような言葉で実は話を聞いてみれば全部臨床で、実習でやってたんじゃない？っていったところ
	フィジカルアセスメントの実習・臨床での使い方がわかった (6)	看護の必要性を見出したり、また、援助の方法をね、生かしたり、評価するのに使うって言うのは分ったんです
研修会プログラムに満足 (11)	研修会の内容がよかった (8)	この研修は初めて参加させていただいたんですけども、第一に学生に戻る新鮮な気持ちも蘇って、楽しく三日間を過ごせた 学生に教える授業の部分がかなりあったところが私はすっごいよかった
	研修会の進め方がよかった (3)	全部見せていただいたなっていうのが。あのシラバスから授業内容から演習まで含めてあの全部見下さいっていう、こうすごく、うれしいうって感動でした。
		スピード的には自分のレベルにあったたかなって。
自己課題の認識 (9)	自己研鑽の必要性を認識した (3)	ほんとにきちとやっついていかないといけないっていう風にすごく思ったので、ほんとに勉強しないとイケないなって
	自己の教育方法における課題を発見した (5)	あそこまで、一人ひとりに目を向けて進めてもらったりとか、ああ、ちょっと不足しておったかもって、そういう別の私は、勉強になったかなと思います。 いろんな、工夫、VTR使ったり、ビデオ使ったり。スケルトンを使ったりっていうのが凄く解りやすかったので、使ってなかったなあって思いました。
	自校の学習環境整備の必要性を実感した (1)	フィジコだけじゃなくってイチローくんとかまあ何グループかに別れて同じ呼吸とか心音とかが聞けるような形でセッティングしてあったりだとか、なんか揃ってるなあっていうのが、うちはまあ一個か二個くらいなんでまだ、その辺もそろえていかないといけないのかなと思いました

( ) 内の数値はコード数.

表6. もっと知りたいことのカテゴリとサブカテゴリ、コード

カテゴリ	サブカテゴリ	コード
自校でのフィジカルアセスメント教育の展開 (11)	基礎看護学以外の科目とフィジカルアセスメント教育の関係(カリキュラム)についても考えたい (9)	学習進捗とその内容をですねという風にマッチングさせていくの かなってというのが、ちょっと、もうちょっとこう知りたいところで す 教育の中でね、どういう風にね、こう組み立ててね、関連づけてい くかなっていうあたりがちょっと、うん、思ったところですかね。
	自校での展開方法への応用についての心配 (2)	40人くらいいるんで、どうやっていくのかっていうのは疑問がまだ 残っているんです
教育内容・方法の更なる理解 (25)	基礎看護学領域以外の科目(成人・小児看護学)でのフィジカルアセスメントの教育内容が知りたい (3)	(小児看護学への) スライドのさせ方も聞いてみたいなって
	フィジカルアセスメントをどのように看護援助につなげるかもっと聞きたい (7)	それをどうやっぱりケアに繋げていくのかとか、単なる計測に終わ ってしまわないためにはどうしていったらいいのかはやっぱり難し い問題だかっていう風に思いながら今日の研修を終えさせていただ いております。 看護に具体的につなげるのをこの授業の中でされるのか、それとも 基礎看護技術演習とかほかの何か科目ありますよね、援助技術と かですね、そういったところですね、関連性っていうんですかね、 あの、どういう風にしてたらいいかかっていうところ
	実技の事前学習についてもっと知りたい (1)	事前的なものもやっぱり実技の事前的なこともさてらっしゃるん ですかね。
	教員の意思統一の方法が知りたい (2)	教師間でだいぶんこう、一つのこれをやるって言う時に話し合 ってされるんですかね。
	教材の活用・作成法が知りたい (2)	実習室のベットの後ろに、あの、ビデオがセッティングしてあ ったんですけど、あれってどういう形で使われるのかなとちょっと、 聞いてみたいなって
	コマの連続性など工夫をしているか (1)	実際学生にあのーその辺ご講義される時にはやはりこう、1日の中 で同じようにされているのか、それともこう、講義は仕方ない、外 部講師のこともあるでしょうし、やっぱこう、なるべく1・2時間 を一緒に、2コマ続きでやるとか、こう、そういったことの配慮と かもされてらっしゃるんですかね。
	技術に生かせる知識習得の方法が知りたい (1)	あッテストとしてはよかったねって、じゃあそれ済んだから、じゃ あ心臓の位置を調べてみるからちょっと鎖骨触ってって言った らテストは書いてるんですよ。答えてるんですけど、じゃ鎖骨触 ってみようって言ったなら触れないって言うところで授業が前 に進まないのがなんか去年くらいから出ているので、どうしたら いいんだろうかっていうのが非常に悩みですね。
脳・神経系の教育の実際を体験したい (8)	脳神経系を教えてほしかったあ 感覚器とかの見方を教えてほしいなって	
教育評価の方法の理解 (7)	フィジカルアセスメントの評価方法が知りたい (5)	その辺のこう、できて、できないとだめだと思っ たんですけど、実践でできないと、だからそういうのをど ういう風に評価されてるのかなっていうのは
	評価基準の設定について知りたい (2)	技術チェックっていったときに果たしてどの程度、ど こまでどんなふうにできたらOKなのかっていうところを 少し聞いたかったなあって言うところはありました。
研修プログラムにおける演習への要望 (12)	演習時間を延長してほしい (3)	もうちょっと演習があってもいいかなって
	演習機会がもっとほしいので継続して講習会を開催してほしい (1)	まおなじでいいから2回3回やっていったら(身に付 くかなって) ちょっとずつ身につけていくかなって すごく感じます。
	指導人員を増やしてほしい (2)	一人ずつ入ってもらって助言を・・・
	技術を確認してほしい (6)	これでいいっていうのをきちんと見ていただ いたら 今のでもいいですよっっちゃうお墨付きを

( ) 内の数値はコード数

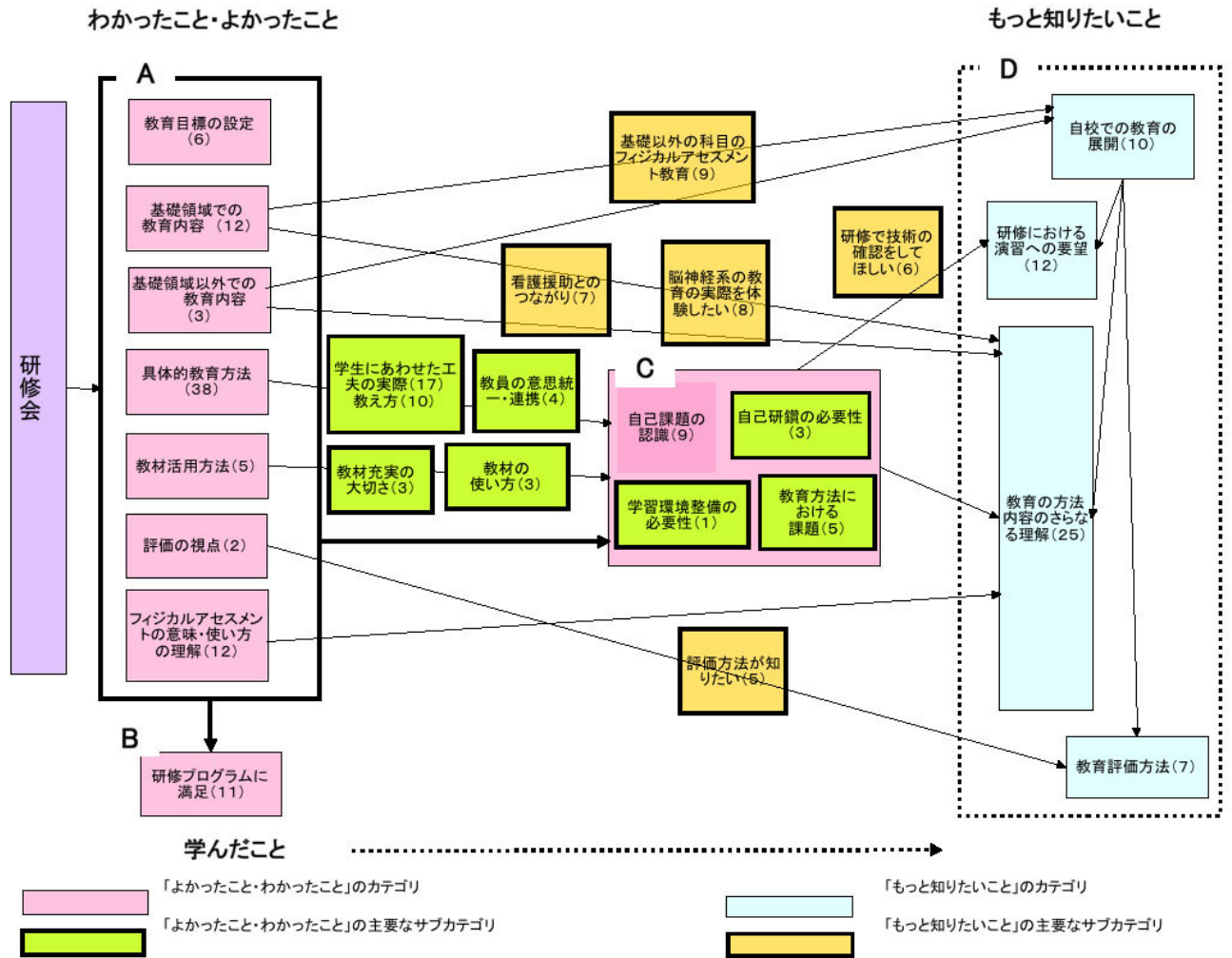


図1 カテゴリと主要なサブカテゴリ間の関係

のように看護援助につなげるかもっと聞きたい><脳・神経系の教育の実際を体験したい><技術を確認してほしい><フィジカルアセスメントの評価方法が知りたい>といった「もっと知りたいこと」が生じていた。

#### IV. 考察

本研究の目的であるフィジカルアセスメント教育に関する研修プログラムのあり方について、1. 研修プログラムの効果、2. 研修プログラムの課題という2つの視点から評価する。

##### 1. 研修プログラムの効果

###### 1) 具体的教育内容や教育方法の理解

研修プログラムの評価としては「わかったこと・よかったこと」(表5)で【研修プログラムに満足】を示しており、プログラムについては概ねよかったといえる。【フィジカルアセスメントの教育目標の

設定】【基礎看護学領域でのフィジカルアセスメント教育内容の理解】【教材の活用方法の理解】【フィジカルアセスメントの意味や使い方の理解】【評価の視点の理解】のカテゴリが示すように、設定した研修会の目標(表2)を概ね達成したといえる。

<フィジカルアセスメントの教え方がわかった><教える内容を厳選する>と教育内容については特に多くの表現で理解を示しており、学生に教授するような内容をそのまま見せたことが教える立場の看護専門学校教員にとって効果的であったといえる。また、教育の実際から<学生に合わせた工夫が学べた><ポイントを絞って教えることが大切>と具体的教育内容や教育方法を学んでいることがわかる。教える立場にある看護専門学校教員を対象とする研修では「教育」という視点はずさないことが大切であるといえる。

## 2) 学びの発展と自己課題の発見

「もっと知りたいこと」(表6)で、<基礎看護学領域以外の科目でのフィジカルアセスメントの教育内容が知りたい><フィジカルアセスメントをどのように看護援助につなげるかもっと聞きたい>などの【教育内容・方法の更なる理解】について興味を示していた。

研修会受講前のフィジカルアセスメントに対する漠然としたイメージを持つ段階から、教員のフィジカルアセスメント教育に対する理解が進んでいるといえる。研修会を終えた時点では【フィジカルアセスメントの意味や使い方の理解】などの成果を示すだけでなく、【教育内容・方法への更なる理解】へ興味に移り、<基礎看護領域以外の科目でのフィジカルアセスメントの教育内容が知りたい><フィジカルアセスメントをどのように看護援助につなげるかもっと聞きたい>などと具体的教育内容・方法をもっと知りたいと学びは変化している。評価についても【評価の視点の理解】を示していた段階から【教育評価の方法の理解】について<フィジカルアセスメントの評価方法が知りたい><評価基準の設定について知りたい>と具体的方法や評価基準をもっと知りたいと変化している。

看護専門学校教員と自校での教育の具体的展開への興味の移行から、研修内容が妥当であったと同時に看護専門学校教員学習意欲を刺激する内容であったといえる。

研修会終了後、受講した教員は多くの成果を得たことにより自己を振り返り、<自己研鑽の必要性を認識した><自己の教育方法における課題を発見した>などと【自己課題の認識】を示しており、教育者としての自己の課題を発見していた。

さらに<基礎看護学以外の科目とフィジカルアセスメント教育の関係(カリキュラム)について考えたい>と【自校でのフィジカルアセスメント教育の展開】について考え始めていた。これは2009年4月1日からの適応となるカリキュラム改正<sup>3)</sup>を目前に、自校でのフィジカルアセスメント教育の展開は早急に考えなければならない課題であることに起因する。

フィジカルアセスメント教育そのものも模索状態にあり、何をどこまで教育していくかについては、明確になっていない現状<sup>1)</sup>であるため、教育と現場のニーズを反映した教育内容の検討と効果的教育方法の構築が今後も必要であるといえる。そうした中、

カリキュラムの構築においてフィジカルアセスメント教育をどのように組み入れるかは受講した教員の所属する専門学校においても課題であり、関心が高い。研修会とインタビューが、学びを進展させ、自校のカリキュラム構築へ関心を移行させたと考えられる。さらに教員の学習意欲を刺激したことは研修プログラムの効果として意義あるものである。

研修会を主催する大学側も、研修会を受講する専門学校のカリキュラムやフィジカルアセスメント教育内容を知った上で現行のカリキュラム上の問題点や改善策を検討する時間を研修に組み入れることも可能であった。大学教員がファシリテーターとしての役割を果たし、新しいカリキュラムを構築できる時間を持つことも有効であるといえる。

## 2. 研修プログラムの課題

### 1) フィジカルアセスメント技術を確実なものとするための技術の確認と演習時間・機会の確保

「研修を受けてよかったこと」(表5)で【研修プログラムに満足】を示しており、「研修を受けてもっと知りたいこと」(表6)では【研修プログラムにおける演習への要望】を示していた。プログラムの約40%を演習としたが、<演習時間を延長してほしい><指導人員を増やしてほしい><技術を確認してほしい><演習機会がもっとほしいので継続して研修会を開催してほしい>との要望があった。受講者は演習や技術確認の機会をより多く経験することにより技術を確実なものにしたいまたは確実なものにできると考えていることが示唆される。

田中ら<sup>4)</sup>の看護専門学校教員を対象としたフィジカルアセスメント講習会実施時の課題である技術演習時の人材確保の必要性を考慮し、演習時には11人の受講者に対して本学教員3人で対応したが、教員とはいえ学習者一人ひとりがフィジカルアセスメント技術を確実にするためには更なる演習時間の延長と指導人員を確保し、それぞれの技術を確認できる体制を整えた上で、演習を展開するべきであったといえる。

フィジカルアセスメントテクニックの修得は、呼吸音や心音を代表する臓器の発する音、あるいは柔らかいといった触感から得られる情報など、実際に人体に触れたり聞いたりしなければできない<sup>5)</sup>。教員自身がアセスメントテクニックを修得し、自信を持って教育するためには、研修会中の演習時間の十



分な確保と演習時の技術確認が必要であり、それが、看護専門学校教員の看護実践能力および教育力を向上させるための方法として有効であると考え。指導者が学生に行うケアの評価について、フィードバックするということは、フィードバックの基になるスタンダードがなければできない<sup>6)</sup>と山内が述べるように教員自身が判断できる知識と技術を持たなければならない。教員の明確で正確なフィードバックは学生の成長を促すことが可能である。

しかし、看護教員は直接ケアの場から離れていることが多く、優れた看護技術を維持向上していくこと、および経験に基づいた知識・技術を学生に伝えること難しい状況にあり<sup>7)</sup>、フィジカルアセスメント技術教育を提供する教員の準備状態が整わないまま授業を展開している可能性が高い<sup>8)</sup>との指摘もある。研修会を継続的に行い、看護教員へ学習機会を提供し、看護教員の看護実践能力を維持向上していくことが望まれる。

また、受講する教員と研修会を開催する教員がともに成長できるよう今後も検討を重ね研修会を継続的に開催する必要がある。

## 2) フィジカルアセスメントをどのように看護援助につなげるか

「わかったこと・よかったこと」(表5)で<フィジカルアセスメントの意味が理解できた><フィジカルアセスメントの実習・臨床での使い方が理解できた>と【フィジカルアセスメントの意味や使い方の理解】を示していたが、「もっと知りたいこと」(表6)では<フィジカルアセスメントをどのように看護援助につなげるかもっと聞きたい>と【教育内容・方法への更なる理解】へと具体的な教育の展開に興味を移している。

適切な観察と的確な看護判断能力、さらにはその判断に基づいた適切なケアが行えるような教育が求められており<sup>1)</sup>、学生の看護実践能力の強化は2009年4月1日からの適応となる新カリキュラム<sup>3)</sup>のポイントでもある。系統的にひととおり修得したフィジカルイグザミネーションを、使えるようにするための、どのような患者の状態の時、何のために用いるかを強く意識できる教育の工夫が、学内演習にも必要である<sup>9)</sup>。「わかったこと・よかったこと」(表5)で【基礎看護学領域でのフィジカルアセスメント教育内容の理解】、【具体的教育方法の理解】を示し、

<フィジカルアセスメントの実習・臨床での使い方が理解できた>と成果を示してはいるものの、設定した事例の紹介や実習での展開例をさらに詳しく示し、フィジカルアセスメントをどのように看護援助につなげるかといった具体的な内容を研修プログラムに含め強調するべきであったといえる。

単に技術の手順を学ぶのではなく、状況を判断し、その人に合わせた看護技術の教育をめざす<sup>10)</sup>ことがカリキュラム改正の意図であるため、城生ら<sup>5)</sup>が述べるように、フィジカルアセスメントで得た情報を看護援助に結びつけなければ、何の意味もない。看護場面でどのようにフィジカルアセスメントテクニックを使い、看護援助に生かしていくかなど、基礎看護学領域以外の専門領域における教育内容の精選や教育方法についても研修内容に含めるべきであったといえる。

また、フィジカルアセスメントをどのように看護援助につなげるかをどのように教育していくかは大学教員にとっても今後の課題であり検討の必要がある。

## 3. 本研究の限界と今後の課題

今回の研究対象は11名と少なく、限られた施設の看護専門学校教員である。本研究には、フォーカスグループインタビューを適用したため、印象的発言によりグループメンバーが影響を受けるなど、相互作用により発言数や発言内容を誘導した結果になっている可能性が高い。また、インタビューの司会者は、研修会の主催者であるため、研修プログラムの課題を引き出しにくい状況であった可能性も否定できない。また、対象者の個別背景・経験や司会者の力量により影響を受けた可能性が高い。よって、結果の一般化には留意が必要である。今後は対象者を拡大し、一般化を視野に入れた量的研究に発展させる必要がある。

## V. 結論

看護専門学校教員のためのフィジカルアセスメント教育に関する研修プログラムについて次のことが明らかになった。

1. <教える内容を厳選する><学生に合わせた工夫の実際がわかった><ポイントを絞って教えることが大切>と具体的教育内容や教育方法を理解しており、教える立場の看護専門

学校教員にとって効果的であった。

2. 学びの発展と自己課題の発見が可能で、看護専門学校教員の学習意欲を刺激する有意義な研修プログラムであった。
3. 看護専門学校教員がフィジカルアセスメント技術を確実なものとするための技術の確認や演習時間・機会の確保が必要である。
4. フィジカルアセスメントをどのように看護援助につなげるかといった具体的な内容を研修プログラムに含め強調する必要がある。

## 謝辞

本研究にあたり、ご協力いただきました看護専門学校教員の皆様および関係者の方々に心から感謝いたします。

本研究は平成20年度山口県立大学附属地域共生センターの受託研究として助成を受けて行った研究である。

## 【文献】

- 1) 篠崎恵美子、山内豊明：看護基礎教育における呼吸に関するフィジカルアセスメント教育のミニマムエッセンシャルズ、日本看護科学学会誌、27 (3)、21-29、2007.
- 2) 萱間真美：質的研究実践ノート－研究プロセスを進めるclueとポイント－、医学書院、2007.
- 3) 厚生労働省：看護基礎教育の充実に関する検討会報告書 平成19年4月16日、2007. <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/04/dl/s0420-13.pdf> (参照 2008.12.3)
- 4) 田中愛子、丹 佳子、井上真奈美、川嶋麻子、張替直美、岡本早智子：フィジカルアセスメント講習会を通して、看護職キャリアアップコースのあり方を考える、山口県立大学紀要、10、9-13、2006.
- 5) 城生弘美、志自岐康子：自己学習を中心としたフィジカルアセスメント教育の実際、看護教育、43 (1)、11-17、2002.
- 6) 住吉蝶子、山内豊明：日本の看護実践能力育成において欠けているもの、看護教育、48 (8)、643-655、2007.
- 7) 折山早苗、大丸美智代、横井万里：看護教員における看護実践能力に関する自己認識および研修の効果、看護展望、33 (6)、626-632、2008.
- 8) 金谷悦子、村上みち子、山下暢子、近藤誓子、大川美千代、高井ゆかり、佐々木かほる：看護基礎教育におけるアセスメント技術教育研究の動向－過去5年間のフィジカルアセスメント技術教育研究に焦点を当てて－、群馬県立県民健康科学大学紀要、1、35-49、2006.
- 9) 丹 佳子、田中愛子、川嶋麻子、井上真奈美、田中マキ子、野口多恵子：基礎看護学実習Ⅲにおける学生のフィジカルイグザミネーション実施状況－教員の必要性の判断からみた実施率－、山口県立大学紀要、8、33-40、2004.
- 10) 小山真理子：新カリキュラムがめざすこと「看護基礎教育の充実に関する検討会」を終えて、看護教育、48 (7)、555-562、2007.

---

**Title:** Evaluation of physical assessment training program for nursing school instructors

**Abstract:** The purpose of this study was to evaluate a physical assessment training program implemented for the nursing school instructors. The participants of the study included 11 nursing school instructors. The focus group interview was used for the data collection. Through the focus group interview, the participants were asked to discuss regarding: “Things they understood through the program and the advantages of the program”; and “Things they would like to know or learn further”. Nine categories including: Setting educational goals of physical assessment”; Understanding educational contents of physical assessment within fundamental nursing”; “Understanding concrete educational methods”; “Understanding the use of teaching materials”; “Understanding educational contents of physical assessment within advanced nursing”; “Understanding view points of evaluation”; “Understanding the meanings and use of physical assessment”; “Satisfying the training program”; and “Awareness of self-challenges” were emerged as things the participants understood through the program and the advantages of the program. Four categories consisting of: “Implementation of physical assessment education at own schools; “Further understanding educational contents and methods”; Understanding educational evaluation methods”; and “Further requests of the training program” were revealed as things they would like to know or learn further. Through the program and focus group discussions, the participants were able to understand regarding concrete educational content and methods, as well as be aware of their future challenges. The program increased the participants’ motivation for their learning. The study suggests that the program needs for further learning/teaching opportunity for checking the participants’ physical assessment skills with ensuring a more practical time, and understanding how to apply the physical assessment skills into real nursing care.

**Key words:** Physical assessment education, evaluation, focus group interview, nursing school instructor

---